

# ファイールド風

(現場)からの風

宮田守男

連日、森友学園問題や豊洲問題などを取り上げる、多々の情報番組。  
しかし国民が直面する諸問題を審議する国

会の予算委員会、予算の実質的な論議の内容が国民に伝わってこない状況は、多くの国民に政治不信を生じさせている。報道される諸問題での論議が、不毛・不要だと指摘している訳でない。大きな課題をこの様に考え、制度設計していくのか伝わってこない。

その予備群の人たちが、2025年(以後25年)に1300万人の認知症社会になると警告。認知症などの交通免許保有者は、2015年(以後15年)に約2502万が、25年には約350万人。自損事

介護離職者は、約10万人との大和総研のデータを紹介。「ずっと、介護だけの人生で終わっちゃうと思う」と、「すい〜くらい」との現場の声が紹介されると無性に胸が引き締められる。

介護離職者は、約10万人との大和総研のデータを紹介。「ずっと、介護だけの人生で終わっちゃうと思う」と、「すい〜くらい」との現場の声が紹介されると無性に胸が引き締められる。

「支援をしなければいけない」、「介護をしなければいけない」と

直面した生活問題に、真剣に取り組む地域はどうあるべきかを知った情報番組に感謝だ。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

## 認知症と向き合う社会へと急速に進む現状を地域視点で考えてみませんか

故の危惧より、加害者・加害者家族になりうる社会にこの指摘。介護施設の人員不足による制度崩壊で25年には特養待機者が62万人になるとの日本総研

ひとりの暮らしの認知症高齢者も、15年の約96万人が25年には約144万人に。多数の孤立死が予想されるとい

さ、「身近な場所に自然に集まれる場を造る」、「認知症患者だけ.....現状の福祉施設だけでは対応できない予測には既存の地域内施設をどの様に活用して行くかが問われている



白馬村地域サービスセンター 岳の湯